

明照学園樹徳高等学校 第1回学校評価一覧表（令和6年度版）

羅 針 盤		方 策		点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次回への課題
評価対象	評価項目（具体的数値項目）			自己評価	外部アンケート等	総合	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1	本校の教育活動（学習、学校行事、部活動、生徒会活動等）に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	学習においては、授業評価を活用し、互観授業と併せて生徒の満足度が高まるよう工夫・改善を行う。行事や部活動、生徒会活動等は、振り返りを行い改善に努める。また、教育活動の成果をホームページ等により広報する。	A	A	A	授業評価による授業改善、生徒会を中心とした学校行事の活性化、働き方改革に基づいた部活動指導等が全体的に満足度を上げて良好な結果として現れた。今後は互観授業の充実や系列学習の更なる準備が必要になる。
	2	自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	生徒の帰属意識が高まるよう、教育活動の様々な場面で要望や考えを取り上げ、具現化するよう努める。また、生徒と教師間の相互理解を進めるために、生徒一人ひとりを大切に真心を込めて育てていく意識を持つ。	B	A	A	各教員の様々な取り組みが外部評価となって現れている。しかし、多面的で難しい傾向を持つ生徒が存在し、容易ではない現状があり、それが評価の乖離に繋がっていると考える。生徒、保護者の意識について情報共有の機会を設けて現状把握に努めていきたい。
	3	毎朝の「10分間読書」等を含め、年間30時間以上の読書を行っている生徒が80%以上である。	時間割に定められている「10分間読書」の時間を滞りなく実践し、生徒が読書に親しむ時間を確保する。また、教師自らが生徒とともに読書を行い、読書の大切さを教示する。	A	B	A	生徒・保護者に対するアンケート項目が、「本に親しむ生活を送っているか」という問いであったため、妥当な結果かと考える。今後は一層「家読のすすめ」等の働きかけを工夫していきたい。
	4	「総合的な探究の時間」の学習に意欲的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒が自らの興味や関心に基づいて課題を設定し、探究活動が行えるよう支援する。また、生徒が積極的な探究活動を行うためにもネットワーク環境を始めとする施設・設備を整える。	A	A	A	生徒自ら課題を設定し、探究活動を行う環境は整っている。今後は、課題の多様性を支援する指導にも努め、進路実現に活かせるよう年間実施計画の改善に取り組んでいきたい。
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	5	学習に主体的に取り組む、学力が向上したと感じている生徒が70%以上である。	授業に探究の手法を導入する等、授業改善に取り組むとともに、学習にまつまづいている生徒に対し、学習進度・到達度等に応じた課題等を課す等、個別最適な学びを支援する。	A	A	A	学習への取り組み、学力の向上等について、授業評価アンケート等から顕著になった課題の原因を探り、授業改善に取り組んでいきたい。
	6	学習内容の定着をはかり、家庭における一日の学習時間平均2時間以上、大学進学における現役合格率（大学進学を希望する生徒に対する合格率の割合）80%以上を目標に取り組んでいる教師が80%以上である。	単元別試験や振り返りを行い、知識・理解の定着を図る。また、家庭学習の習慣づけと継続を指導し、授業と一体化した学習活動を展開する。	B	B	B	「平日2時間の家庭学習」について、進学（進学探究）コースと普通（キャリア探究）コースでは、結果に顕著な差が現れた。進路実現に向け、生徒自身に必要な学習を考えさせ、計画させる取組を教科担任・クラス担任とで連携しサポートしていきたい。
	7	個々の生徒の様子を観察し、クラスの特徴にあわせて授業内容を工夫するなど、生徒の興味・関心を引き出す授業を展開しているしている教師が80%以上である。	グループワークなどを通して生徒が自主的に考察し、互いに学び合う場面に授業に取り入れ、興味・関心を引き出し、満足度の高い授業を展開する。	A	A	A	概ね達成できており、今後も満足度の高い授業が展開できるよう、教員へ互観授業の計画的実践を呼びかけていきたい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8	1日あたりの欠席、遅刻、早退の合計人数が全生徒数の3%以内になるよう指導している教師が80%以上である。	基本的な生活習慣の定着化を図る指導を継続する。自身の心の在り方を振り返り、目的に向かうための手段・行動の善悪を十分に認識させるための指導を繰り返す。	A	A	A	規則正しい生活行動とは、実行すべき事柄を十分把握し、先を見据えた行動力であり、目的意識が自己を成長させる。継続して学校と家庭が連携し、適切な指導を実践していきたい。
	9	生徒会を中心に団結し、活気ある学校行事が運営され、学校生活が充実していると感じている生徒が80%以上である。	生徒会を中心とした生徒実行委員会を組織し、目標達成に向けた継続的かつ主体的な活動に取り組む、生徒が一体感や達成感を体感できるよう支援する。	A	A	A	生徒会を中心に、行事ごとに生徒実行委員会を組織し、生徒の主体性を促す運営ができた。今後さらにクラス運営に関わる各種委員会の活性化を行ってきたい。
	10	部活動が充実している、部活動の実績が活気ある学校生活に繋がっていると感じている生徒が70%以上である。	各部活動で日々の活動の充実にも努め、実力と人間力の向上を図る。また、全校による各種大会の壮行会や表彰式を行い、生徒の意欲と帰属感を高める。	A	A	A	部活動の充実が学校に活力を与えていると感じる。部活動に係る予算の編成や指導者の指導力向上等を通して、さらに実績が上げられるよう、強化指定部を中心に研鑽を重ねていきたい。
	11	本校の実践目標である「挨拶、掃除、姿勢、言葉、動と静の交代脈動」の指導が適切に行われ、実践できている生徒が80%以上である。	学校行事や授業態度から生徒の自覚の高まり変容が窺える。教師自らが範を示し、一層指導の徹底を図る。	A	A	A	概ね達成できており、引き続き実践していきたい。特に、規範意識の確立においては、教員の率先・垂範が大切である。
	12	本校の学校教育目標である「感謝する心を育み、奉仕の態度を身につける」を基にした指導をしている教師が80%以上である。	浄土宗関係学校の教員として、「共生」の精神を理解し、学校生活のあらゆる場面で感謝と報恩の大切さを説き、朝の信条、帰りの六省を実践するよう導く。	A	A	A	本校の教育目標が根付いている成果であると考えている。今後も智慧と慈悲の全人教育を実践していきたい。
IV 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	13	登校時指導、HRでの交通事故防止等の啓発指導を通して、生徒に注意喚起を促している教師が80%以上である。	交通事故の事例、自転車利用時のヘルメット着用等を始めとする交通規則について教師全体で共通理解を図り、HR等で指導する。また当番制を組み、定期的に登校時の交通指導を行う。	A	A	A	概ね生徒が交通ルール・マナーを遵守しており、その結果、重大事故なし、交通事故件数も減少している。今後も継続してヘルメットの着用を指導していきたい。
	14	基本的な生活習慣を身につけ、日頃から健康に気を配る生活を心掛ける指導がなされていると感じている生徒が80%以上いる。	食事、睡眠、運動のバランスの取れた生活習慣について、授業やHR等を利用して、意識づけを行う。併せて健康状態とストレスの関連性についても指導し、心身の健康促進に努める。	A	A	A	健康的な生活習慣を身につけることは、全ての行動において基本となる。今後も生徒に対し、より徹底した意識付けを指導していきたい。
	15	SNS上の問題点について理解と認識を促し、校内規定を遵守している生徒が80%以上である。	対人関係における基本的な生活行動力（配慮・気遣いある言動）の向上が問題発生の抑止力になるため、心の教育に努める。	A	A	A	指導すべき事項は、生徒に着実に浸透している。今後も問題行動に結びつくことのないよう自己の行動を考察させ、よりよい在り方を指導していきたい。
	16	生徒の悩み、相談等に傾聴し丁寧に対応している、また生活に関する調査を年2回以上行い、いじめの実態把握に努め、迅速かつ適切に対応している教師が80%以上である。	生徒の多角的・多面的な理解と情報共有に努め、組織的な支援体制の下、事例に応じた迅速な対応につなげ、問題の早期解決を目指す。	A	A	A	授業を始めとする教育活動のあらゆる場面で教育相談の機会と捉え、プロアクティブな生徒指導の推進に努めていきたい。
V 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	17	個別面談や家庭での話し合いを通して大学等の上級学校への進学、就職向け進路実現に努力している生徒が80%以上である。	進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を促し、進路に対する意識を高める。また、二者面談や三者面談を通して生徒一人ひとりの課題を把握し、適切なアドバイスをを行う。	A	A	A	生徒一人ひとりの進路に対する課題を把握し、適切なアドバイスをを行っている。さらに、進路意識を高め、希望する進路実現が果たせるよう指導していきたい。
	18	生徒や保護者との面談などを通して、生徒が自分の将来を見据え、進路を主体的に選択できるように情報提供・指導を行っている教師が70%以上である。	進路について、生徒と保護者の話し合いを促すとともに必要な情報を発信する。また、教師間の情報共有を密にし、生徒にとって適切な進路実現を目指し指導する。	A	A	A	教師間で進路に関する情報共有と指導方針の徹底を図り、生徒に有効な進路情報を提供していきたい。
	19	本校の学校教育目標である「毎日の生活や将来の人生を、自分で切り開いていく力を身につける」を基にした指導をしている教師が80%以上である。	進路意識を啓発する講演会等の実施や教師が自身の経験や思いを語り、意識の向上を図る。	A	A	A	学校教育目標を基盤とし、様々な教育活動を通して、生徒の進路意識の啓発を図る指導を行ってきたい。
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	20	学校公開（オープンスクール、授業参観等）を年3回以上実施している、学校内の状況や生徒の活躍等をホームページや広報誌等で年10回以上知らせていると思う生徒が80%以上である。	学校公開（オープンスクール、授業参観等）の開催時期と実施回数、参加者が要望する内容等を検討するとともに、ホームページによりリアルタイムでスピード感をもった情報提供を行う。	B	A	A	自己評価が外部評価を下回っているということは、本年度の方策を改善していく手立てが十分に残されていると考える。よって、今回の方策をより推進していきたい。
	21	生徒や保護者に本校のホームページや配布物等を確認するように呼びかけている教師が70%以上である。	外部に対するホームページや配布物による情報提供が、本校の信頼、評価を得る上で如何に有益かを理解し、生徒や保護者へ呼びかけを行う。	A	A	A	自己評価・外部評価ともに目標値を達成している。今後、一層この方策を推進していきたい。
	22	家庭に対し保護者会や面談等に積極的に参加するよう呼びかけている教師が60%以上である。	共働きや片親世帯が多い中、会合への出席率は保護者の満足度の表れと考える。積極的に出席を呼びかけるとともに、会合の土日開催も検討する。	A	A	A	メール、文書等を併用し、家庭に保護者会や面談等への参加が伝わるよう努めていきたい。なお、現状では土日実施は難しい。
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	23	Chromebookによる課題の配信、すららやスタディサプリ等の学習支援教材を活用し、生徒が主体的に学習に取り組むよう指導している教師が80%以上である。	校務や部活動等、授業外でもGoogleのツールを教師が積極的に使用し、リテラシーの向上を図る。さらに、生徒が授業で使う機会を増やし、家庭学習での利用に繋げていく。	B	A	B	生徒の家庭におけるICTの利用率は高いが、教員の自己評価はこの限りではない。教員に定期試験等での採点業務ソフトの活用を呼びかけ、利用率を高めていきたい。
	24	本校のホームページには必要な情報が掲載されていると評価している保護者が60%以上である。	管理職の指導助言の下、必要な情報を迅速に掲載していく。	A	A	A	概ね良好であるが、学校の情報を迅速かつタイムリーに配信できていないと考える。担当者間で協力し改善に努めていきたい。
	25	学校一斉メールやクラスルーム等を活用した情報提供、緊急連絡等の対応に満足している生徒・保護者が70%以上である。	学校一斉メールは、管理職と連携し迅速かつ漏れないよう配信する。Classroomに関しては、教員のリテラシー向上に努め、確実な情報提供を図る。	A	A	A	概ね良好であるが、学校一斉メールは特定の担当者が配信しているため迅速性に欠ける。今後は管理職の指導助言の下、複数の係で配信できるようにしたい。